

あとがき

第五回「市民生活白書」をお届けします。横浜、きのう、今日、あしたという副題をつけました。

前回（昭和五〇年）から四年経過しました。その当時は、オイル・ショックによる急激な変化で、社会、経済、行政なども大きくゆれ動きましたが、いずれ回復し、躍動する社会に還元されるであろうと思いました。しかし、日本経済は、低成長期に入り、大幅な回復もないまま推移し、石油をはじめとする資源は、いくらでもわが国に供給されるという見通しは難しくなりました。また、円高問題など、国際経済の環境も厳しいものが感ぜられます。国も地方自治体もその財政事情は、税収が伸び悩み、行政需要が硬直化され、そして、借金がふえるばかりといった状況であります。ここ数年の間に、地方行政にかかわる諸情勢は、確実に変化しております。市民の生活意識や行動様式も徐々に変わりつつあります。これら社会・経済等の変化に対して、市政は、それらの動きを的確にとらえ、その指向するところを見定めて、ダイナミックに、それなりの対応を行かねばならないと思えます。

こうした背景の中で、この白書を編集するにあたり、いくつの方針を考えました。ここ数年間とはいえ、こんなに大きく、激しくゆれ動いた場合、その時代を冷静に、正しく位置づけるには、さかのぼって歴史の経過をたどってみることも必要なのではないだろうか。もう一つの見方は、将来への長期的展望に立って、現在を位置づけて、明るい未来に希望をもつことでありましょう。そういう意味から、(一)現在の横浜の成り立ちを開港期にさかのぼって、ふり返ってみること。(二)現在の横浜の姿をできるだけ市民生活の側面にス

ポットをあてて、市民の生活環境や意識、活動状況等を資料に即して、総合的に明らかにすること。(三)これからの横浜の課題と方向をさぐることにいたしました。今回の執筆、編集にあたっては、市政の全般について、広くかつ正確に記述するため、企画調整局内にプロジェクト・チームを編成し、限られた時間の中で、関係局の職員の方々の協力をえながらすすめてきました。紙数に制限があるため、ここに網羅できなかった事項あるいは十分表現しきれなかった点もあろうかと存じますが、いろいろとご協力をいただいた方々には深く感謝いたします。特に、「これからの横浜の課題」については、ユニークで大胆な提言を期待して、市民の方々にお願いしました。お読みいただいたように、どの提言も私たちにとって有意義であり、啓発される点が多々ありました。執筆いただきました十一人の方々には、ご多用のところ、短時間内にお引き受けいただき、改めてお礼を申し述べたいと存じます。また、この白書のしめくりとしての座談会に、細郷市長とともにご出席をいただいた井手文雄先生、丸尾直美先生には、適切かつ貴重な問題提起や将来展望のためのご示唆をちょうだいし、誠に有難うございました。

このように、多くの方々のご協力、ご支援によってできたこの白書を、市の職員はもとより、多数の市民の方々にもお読みをいただき、市政の諸問題につきまして、正しく理解してもらい、横浜の着実な発展のためにお役に立てば、このうえない幸いと存じている次第です。

昭和五四年三月

横浜市企画調整局長

寺内 孝

横浜、きのう、今日、あした

市民生活白書

昭和五四年三月三十一日発行

編集・発行 横浜市企画調整局

横浜市中区港町一丁目一番地

電話(045)6712016

印刷 内村印刷株式会社

装幀・デザイン 矢次勝博

700円

横浜市